

名覃字子稻、南畝と號し、又蜀山と號す、杏花園、石楠齋、遠櫻山人等は、別號也、通稱太田七左衛門直次、郎といふ、牛込に居住し、後駿河臺に移る、初め狂名を四方モテカド赤人ヒトといひ、後赤良アカラと改む、

〔歌俳百人集〕俵の船積

船積は田原氏、大湊舎と云、天明の頃、狂歌の大人にて、そのかみ上手の名を取し人也、

萩廼屋裏住

裏住は久須美氏、通稱白子屋孫左衛門、江戸の産也、略○中、狂名を窓雪院大屋の裏住と改め、四方大

田の門下と成、

三陀羅法師

三陀羅は千秋庵と號す、神田お玉ヶ池に住し、狂歌をもつて世に名をたらしむ、

六樹園飯盛

飯盛は石川氏、名雅望、字五老、狂名宿屋のめしもり、通稱ぬかや七兵衛、後に五郎兵衛とあらたむ、

烏亭焉馬

焉馬は、中村氏、名英祝、通稱和泉屋和介、初號野見てうなごんすみかね、別號桃栗山人、柿發齋、一號

淡洲樓、本所相生町に住むして、家業足袋職なり、幼年より狂歌を好み、略○中、狂名と號し、をかしき

名をつけたるは、此人を始とす、

大木戸黒牛

黒牛は越前敦賀の産にして、幼き時東都に來たりて、略○中、狂歌を好み、其頃の大人濱邊の黒人が

門人となり、狂名大木戸の黒牛と號す、芝高輪に住し、ゆへ、師家よりかくとなづけしよし也、

元の本網

本網は名正雄、幼名喜文、後に通稱金子喜三郎といふ、武州松山の産なり、狂歌を以て世に名高し、